

第16回銀華文学賞 中間発表 一次・二次・三次予選

●第16回銀華文学賞に御応募いただき、まことにありがとうございます。おかげさまで、日本全国から総数二〇七編の作品をお寄せいただきました。心から御礼申し上げます。去る四月三〇日に締め切らせていただき、厳正な一次・二次・三次予選審査を行いました。その結果を謹んでここに発表させていただきます。

無印は一次予選通過者、○印は二次予選通過者、◎印は三次予選通過者です。長いタイトル、複数タイトルは短く省略させていただきます。

- 北海道
●「二通の手紙と六月の風」 遊佐秀憲
●「清さの姫」 藤川とみ枝
●「小部屋」 近藤ゆみ子
●「謝絶の日」 家田 満
●「小さい恋物語」 団周五郎
●「革のトランクケース」 月居まおこ
●「壊れた腕時計」 青木ガリアン
●「ノアガーデンエリザベス」 栗山佳子
●「near him」 山本御覽
●「羽ばたくために」 坪田節子
●「父と電子レンジとトウモロコシ」 広瀬美月
●「最後の嘘」 高岡啓次郎
●「愛のかたち」 東間征子

- 「魔女の伝言」バスター・パーク
●「好運を呼ぶ男」 中庭昌樹
●「悲願」 左津前 浩
●「祈願」 平笑丘
●「残照」 石川 侃
●「おみや饅頭」 平山嗣人
●「マフラー」 齊藤宏壽
●「金欄のちぎり」 村川 修
●「消えない痣」 あぐり
●「群馬県」
●「監督のいない工事」 紙屋里子
●「風の町」 藤村 邦
●「十字架の真実」 ユラン
●「埼玉県」
●「白衣の天使」 北川 聖
●「無垢なる罪」 井上眞子
●「襟裳岬」 藤木由紗
●「落陽」 根岸幸晏
●「友なればこそ」 佐久間文治
●「川を渡って来た少年」 折口 真
●「終わらないブラックホール」 秋野佳月
●「千葉県」
●「不死鳥と家来」 田村芳郎
●「佳日」 嶋津治夫

- 「鰐に告ぐ」 依田 泰
●「草駄天幫間」 安芸木宛
●「さよなら、わたしのカリスマ」 あおいなつ
●「行つてはいけない家」 入谷暮明
●「今日、どこ行く？」 室町 眞
●「川を渡る」 ミチコ 任
●「光る葉波」 井上友秋
●「やじろべえ」 立花野風
●「恥部を消す」 風樹 茂
●「ダンナ」 長野正毅
●「あにい」 邑崎龍哉
●「七枚の絵」 野中 寛
●「つぐない」 神山洋平
●「揺曳」 小野満志呂
●「音色に変えて」 阿島美央
●「虹のち晴れ」 夏目るか
●「花嫁」 深山卓月
●「ふるさとから遠く離れて」 深山卓月

- 「風花」 在間ミツル
●「父の成人式」 守尾 六
●「しあわせのお告げ」 甘江 慧
●「名取のひと」 坂下次郎
●「シスターコンプレックス」 宮 幸作
●「花に風」 沢田進二
●「伊勢湾台風に出会った日」 黒沢良子
●「メタモルフォーゼ」 晩学作曲家
●「モノローグ」 栗山 丈
●「華燭」 遠嶺そら
●「白いティータム」 宮脇すみれ
●「赫然と」 茅野樹也
●「北の庭」 鈴木和子
●「隠居はしたもの」 山本嘉彦
●「新潟県」
●「やまとなでしこ」 ひとりがた
●「富山県」
●「TRUE LOVE」 白河葉
●「百問川の闇」 立野幸雄
●「ひたすら前を向いて」 中本泰正
●「居合と『満月』」 小倉孝夫
●「父の不始末」 道 明
●「石川県」
●「父を恋うる人」 門倉まり
●「金沢の音色に風車」 工藤哲椰
●「Happy Birthday」 プレへの
●「贈り物」 みやこしこうじ
●「眩耀」 北山修子
●「福井県」
●「杏と琥珀」 中野智子
●「山梨県」
●「原野のちい」 ふきのとう
●「長野県」
●「素敵な未来図」 五月十二
●「八ヶ岳の一服」 渡辺 勝
●「虹を架ける」 山崎こうせい
●「頻出ファンタスマ」 澁 惟眠
●「静岡県」
●「青葉色トランジション」 水先イツキ
●「月の明るい夜に」 三崎立子
●「きょうだい」 犀川巳鶴
●「約束」 藤倉 涼
●「愛知県」
●「夜明け」 朝比奈豆粒
●「マブイの旅」 北原 岳
●「夢の手触り」 高倉麻耶
●「三重県」
●「夕風に舞う空蟬」 松田貞子
●「健陀多」 吉野幸夫
●「鎮魂の石碑」 谷口俊明
●「京都府」
●「声」 奥村郁雄
●「女と狼師」 原口賢治
●「何処にもいない女」 藤村羅旬
●「「あわせ探し」 岸田一彦
●「さくらみ」 八木 宏
●「天満月」 吉田繁夫
●「女神様がいる神社」 河野 仁
●「誰もわからない」 高橋ひとみ
●「レイクパウエル」 山田 明
●「晩秋」 影山 透
●「不等号な私たち」 千 楓
●「東京都」
●「桜の季節に」 小室澄江
●「揺らぐ日常」 中村福子
●「時の奴隷」時の支配者」 坂本 榮
●「ある夏、サナトリウムで」 朝川 彪
●「共犯の街」 南田偵一
●「たまにや家族もいいもんだ」 中トロ
●「トライアングル」 九条之子
●「秋彼岸」 牧 康子
●「三号艇」 今野一成
●「男と女」 松本昂幸
●「山野草ラリー」 高尾周一
●「迷える猫」 荒井りゅうじ
●「湾岸レストラン」 篠宮あき
●「二歩、ともに。」 川原正路

第4回「文芸思潮」新人賞 中間発表

●第4回「文芸思潮」新人賞に御応募いただき、まことにありがとうございます。おかげさまで総数三八編の作品をお寄せいただきました。心から御礼申し上げます。去る四月三〇日に締め切らせていただき、厳正な一次・二次・三次予選審査を行いました。その結果を謹んでここに発表させていただきます。無印は一次予選通過者、○印は二次予選通過者、◎印は三次予選通過者です。

- ◎「ある現実―散文詩風な小説」 成瀬十八
- ◎「自然発火」 小山鬼
- ◎「匿名記者アカウント」 萌乃ポトス
- ◎「黙れ」 南崎理沙
- ◎「Duplicate」 さんし
- ◎「承認」 和泉 真
- ◎「ある話」 田中ちよ
- ◎「破廉恥なバレンキマ」 書類番号840
- ◎「なくのは女のないものねだり」 藤本亜香莉
- ◎「歌詠」 羽前鈴羊
- ◎「[Tast Cigarette] グミガスキー」 桜田光辰
- ◎「私のオルフェウス」 新山健介
- ◎「てんさいな英雄」 鈴木希寿
- ◎「閃光」 海老沢優
- ◎「あらゆる存在と喪失(たけのこを添えて)」 水埜 周
- ◎「石榴の木」 岡田 暁
- ◎「夜は永遠に」
- ◎「幽隠の終わり」 中山喬章
- ◎「今日は生きます、でも明日は死にます」 加藤 拓
- ◎「エディ」 宮下 空
- ◎「天使と成りても」 深舟牙子
- ◎「ひだりぼっち」 山本 襄
- ◎「瑠々々」 米井暢成
- ◎「催眠パーティー」 白田イチジク
- ◎「耳鳴りと暗騒音」 川崎雄司
- ◎「遙かなる旅路」 金子光輝
- ◎「手紙屋」 小幡紫音
- ◎「ホワイト・ライ」 宇部道路
- ◎「可逆的後悔史」 似内
- ◎「ふと、足もとを見下ろして」 ひとつじ渚
- ◎「虚の顔」 蒼黄 緑
- ◎「圭と凜」 河埜喜一
- ◎「ディアスポラ」 樋口リョウ
- ◎「スタンダップ東風平」 儀保佑輔
- ◎「死病」 橋本一馬

- ◎「罪と罰」 高木敏克
- ◎「繋がる」 伊吹耀子
- ◎「幽艶の古都」 永田祐司
- ◎「メーコ」 ふぢ本
- ◎「サムシング・ニュー」 かめいのり子
- ◎「和歌山県」 足立悦郎
- ◎「空似」 林 晋作
- ◎「老人ホームにて」 神郷愛光
- ◎「鳥取県」 大場荘介
- ◎「大空放哉伝」 栄子
- ◎「岡山県」 中崎紫紅
- ◎「鬼川」 大場荘介
- ◎「今わの人」 栄子
- ◎「里山を越えて」 栄子
- ◎「広島県」 森田昌樹
- ◎「川のためたい」 森田昌樹
- ◎「道草の先の千日紅」 みーなつむたり
- ◎「宇宙伝説―銀河ひとしづく―」 いまだまりこ
- ◎「山口県」 木澤 千
- ◎「タイムカプセル」 木澤 千
- ◎「徳島県」 菊野 啓
- ◎「量子の母」 菊野 啓
- ◎「香川県」 白峰 綾
- ◎「生きていきたい」 白峰 綾
- ◎「愛媛県」 原 実桜
- ◎「祖父の恋、父の恋」 原 実桜
- ◎「静謐」 鷹城恒星
- ◎「高知県」 小原友紀
- ◎「霧氷わたる南風」 小原友紀
- ◎「福岡県」 柳風亭清三
- ◎「君と海を渡る時」 満州旅人
- ◎「孤老生活万歳」 後藤克之
- ◎「見えない斜面」 波佐間義之
- ◎「凍心」 波佐間義之
- ◎「俺たちの 平和台」 興膳克彦
- ◎「星月夜」 鐸木英莉
- ◎「あなたからの贈り物」 星野 華
- ◎「身上」 花里みちる
- ◎「熊本県」 宮川行志
- ◎「二番手」 宮川行志
- ◎「大分県」 岡 大吉
- ◎「長い間にはいろいろなことがあるなあ!」 岡 大吉
- ◎「戦争体験談」 爽穂
- ◎「レストラン明星」 椿山 滋
- ◎「ミッドライフクライシス」 松本 馨
- ◎「此の夜を如何せん」 ヒロ・ミエノ(仮)
- ◎「落魄の森」 笠置英昭
- ◎「野の家」 古羽田良
- ◎「宮崎県」 古羽田良
- ◎「あの松のふもとまで」 初木はやひこ
- ◎「百済の舞い」 内村光寿
- ◎「鹿児島県」 内村光寿
- ◎「古希の逃避行」 奈賀逸樹
- ◎「沖縄県」 泉庵
- ◎「キセキ」 泉庵
- ◎「海外」 泉庵
- ◎「十二月の夏の出来事」 荘百合子



小説の書き方を体験を踏まえて丁寧に解説する小説指導書

# 小説の書き方

―作家を志す人のために―

## 五十嵐 勉

■応募者の皆様へ

第一次・第二次・第三次の選考について

「文芸思潮」銀華文学賞・新人賞への御応募まことにありがとうございます。第一次・第二次・第三次選考について選考委員会より付記させていただきます。

第一次の選考基準は、他者に伝える文章になったりするかどうかが重要な基準点となります。また書く姿勢を加味させていただきます。少し文章が粗くても、他者に訴えたい切実なものが感じられる作品は一次通過しています。また逆に文章を整っていても、書く姿勢が曖昧なもの、書く必然性が希薄なもの、中途半端なものは落とさせていただきます。この二点をクリアしたものが一次予選通過者です。何%とか、何篇以内とか、数字の枠はありますが、しかしながら、応募者全員が一次予選合格ということもありません。

また第二次予選は、その中でさらに強く何かを感じられるもの、光るものが選ばれます。何かを読み手の中に残っている作品ということになります。一行でもいい、一人の人物でもいい、見方でもいい、何か一つ心に残るようなものがあると、上に

拾い上げたくなるという、一つの魅力を持っているかがポイントになります。

第三次予選は、よりたくさんの方に読んでほしいような普遍的な力を備えているかが、選考の基準になります。第三次予選まで通過した作品は、ほぼ雑誌に載ってもいい、人に読んでもらっても何か訴える力を備えていて、読んだ人の心に何かが残って新たな力になるような作品です。

「文芸思潮」選考委員会では、選考の便宜性を重視して作品数によって制限するのではなく、作品の内容を重視して、優れた作品がたくさんあれば、できるだけその作品の価値やレベルによって、作品を残すよう心がけています。したがって、場合によってはたくさん作品が三次予選、さらにその上に選出される可能性もあります。

どうかこれらの点を御了解くださいますようお願い申し上げます。

またご自身の文章力が具体的にどれくらいレベルか、文章力検定も併せてご利用いただけましたら、文章技量向上の一つの目安になると思います。

(銀華文学賞・新人賞選考委員会)